

平成30年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	新しい対称性による数論幾何的単数の創出に向けた戦略的研究
研究代表者	坂内 健一 (慶應義塾大学・理工学部・教授) ※平成30年7月末現在
研究期間	平成30年度～平成34年度
コメント	<p>本研究は、Nekovar-Scholl によって提起されたプレクティック構造と呼ばれる対称性に注目して、高次元の場合に新しい数論幾何的単数を構成することを目指すものである。</p> <p>応募者は、これまでの数論幾何学分野を対象にした一連の研究成果を踏まえ、少数精鋭の国内外の第一線の研究者からなる研究組織を構成し、プロジェクト型研究として実行することとしている。本研究の提案は、当該分野における懸案の課題解決にとって本質的に重要であり、本研究の推進によって現代数学の中心的な課題のひとつである、数論幾何学分野のブレークスルーに資することが大いに期待できる。</p>